

異文化理解－中国編

科目責任者 小鳥遊 信子
学年・学期 1 学年・3 学期

I. 前 文

本科目では、多文化共生社会を構築するための異文化を理解する態度について、中国文化に焦点を当てて学ぶ。多文化共生とは、在住外国人を日本社会の構成員としてとらえ、多様な背景を持つ人々が、それぞれの文化的アイデンティティを發揮できる条件を整えることにより、社会の豊かさを増大させようとする試みである。

日本社会に多文化共生が求められる背景には、おもに経済的側面から、グローバル化（地球規模の人口流動、企業の海外進出）や日本社会の縮退（経済規模や労働人口の維持）が挙げられる。

多文化共生は経済的な豊かさやバリエーションに富んだ文化の享受が可能になる一方、文化的摩擦や判断基準の混乱をも生む諸刃の剣である。我々がより複雑さを増す多文化共生社会に身を置くためには、異文化を理解する態度の形成と、多文化共生のための方法論を学ぶ必要がある。

II. 担当教員

非常勤講師 小鳥遊 信子

III. 一般学習目標

自国及び他国の文化に対する理解を深め、文化の多様性に対する寛容な態度や、広い視野で物事を考える力を身につける。

IV. 学修の到達目標

1. 多文化共生社会を構築するための態度を形成する。
2. 中国文化を理解し、中国に対する視点を養成する。
3. 日本人間の多文化に対しても自覚的になり、よりよいコミュニケーションを図れるようにする。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	10	16	水	4	概説	小鳥遊 信子	2, 3
2		23	水	4	異文化理解の障壁①	小鳥遊 信子	2, 3
3		30	水	4	異文化理解の障壁②	小鳥遊 信子	2, 3
4	11	6	水	4	中国文化の理解①	小鳥遊 信子	2, 3
5		13	水	4	中国文化の理解②	小鳥遊 信子	2, 3
6		20	水	4	中国文化の理解③	小鳥遊 信子	2, 3
7		27	水	4	多文化共生スキル 日本人の間における多文化	小鳥遊 信子	2, 3

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

期末レポート50%，各回ふりかえりシート30%，出席状況や学習意欲など20%により総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

はじめて学ぶ異文化コミュニケーション 有斐閣選書
 アサーショントレーニングーさわやかな自己表現>のために 金子書房
 授業の内容に応じ、プリントを配布する。

VIII. 質問への対応方法

講義中、もしくは講義終了時に受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の振り返りシート・課題は授業内でフィードバックする。

XI. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間
シラバス別冊に記載。

XII. コアカリ記号・番号
シラバス別冊に記載。